

受賞者紹介

◆辰馬杯 [OBOGの中から顕著な働きのあった者に与えられる]



大山 吉重 (拳法部・1981年法学部卒)

2019年までは幹事長、2020～2022年にOB・OG会長、2023年からは監督として拳法部の運営と発展を支えてくれました。1979年には主力選手として全国制覇を達成し、2025年には指導者として46年ぶりとなる全国制覇へ導かれました。その歩みは、競技者・指導者・組織運営者として拳法部の歴史と伝統を体現するものです。

◆木村杯 [現役及び指導者の中から顕著な働きのあった者に与えられる]



林 雅司 (卓球部・1986年経済学部卒)

昭和62年から女子部コーチ、平成19年から令和7年まで女子部監督を務められました。温厚ながらも卓越した指導力で、関西学生リーグ4部にまで降下した苦節の奮闘期を耐え、現在は1部の常連校として関西学生を引っ張る存在になっています。平成27年にはインカレ初のベスト4、そして関西学生リーグで念願の初優勝。創部55年目にして金字塔を打ち立てました。

◆米田杯 [OBOGの中からK.G.A.A.の活動に関して顕著な働きのあった者に与えられる]



浅井 晴雄 (ワンダーフォーゲル部・1964年経済学部卒)

現役時代、100名を超える部員を率いるリーダーとして、クラブの中心となり活躍されました。OBになられてからも、クラブの50周年記念誌の主幹メンバーとして多大なご尽力をいただきました。また、OB会副会長として、1986年のメラピーク遠征や2026年のブタ・ヒュンチュリ遠征など、現役部員の海外遠征を強力にバックアップしていただきました。また、KGAAにおいても10年以上役員を務められ、特にゴルフコンペの運営に於いては、参加者の募集に多大なるご尽力をいただき、今日の定着化に貢献されました。

◆勇者杯 [昭和38年卒業者の推薦]



射撃部

2025年6月の日本学生選抜10mエアピストル女子で川上仁葉が個人優勝。9月の全国学生で森田馨介、渡部智喜、松村歩夢が10mビームピストル男子団体に全国制覇を達成した。西日本選手権、関西学生選手権でも頂点に立ち、部史に栄光の1ページを加えた。選手一人ひとりが不断の努力で培った技術力と精神力に加え、主将を中心に部員一丸となった研鑽と切磋琢磨で勝ち取った全国制覇。競技成績のみならず、高い組織力と団結力で新たな歴史を切り拓いた射撃部は、体育会の模範として勇者杯にふさわしい。

◆功労賞



榊原 光翼 (ハンドボール部・2025年法学部卒)

主将兼エースとして、創部初となる西日本選手権優勝、さらに全日本選手権準優勝という輝かしい成績を打ち立てる一方、日々の練習においても常に先頭に立ちチームを牽引されました。高い目標を掲げ、率先して努力を重ねる姿勢はまさに、チームにとって必要不可欠な存在であり、チーム全体の競技力向上と結束力強化に多大な貢献を果たされました。その功績は誠に顕著であり、功労賞にふさわしいものです。



宮本 春樹 (体操部・1973年商学部卒)

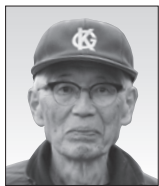
2005年から16年間体操部監督を務め、男子団体は2010年度から8年連続関西3位を継続、5度の全日本インカレ出場を果たしました。関関同立で同時期にインカレ団体に出場したのは関学のみでした。総合関関戦では男子12連勝、女子3連勝を記録。監督退任後も全国から文武両道を目指す学生を見出し、2025年度9年ぶりに関西、西日本インカレに男女とも団体出場する快挙の一翼を担われました。また、「関西学院スポーツ史話 上ヶ原篇」の部史編纂に尽力されています。



北 雅久 (ボート部・1972年法学部卒)

ボート部OBOG会長として1999年から10年間にわたって指導力を発揮、部の強化とOBOG組織の発展に尽力されました。その後も長年にわたり、合宿の多い現役のためにお米の寄付を現在も継続するなど、物心両面において現役を支援し続けておられます。また、1972年卒の体育会有志の会「躍々会」会長として、毎年KGAAフェスタにおいて学生を表彰していただき、体育会とKGAAの発展にも貢献されました。

◆功労賞



伊藤 真人（準硬式野球部・1969年経済学部卒）

現役時代には全国大会に出場するなど活躍。2014年からは監督として関学準硬の黄金期を築られました。練習では毎日最初から最後まで参加・指導され、試合はもとより合宿でも指揮を執っておられます。
準硬式らしく、執行部に任せるべきところは任されているため、学生の信頼も厚いものがあります。また、関西六大学連盟では関学の代表理事として、また関西地区連盟の理事としても活躍されています。



森本 吉一（空手道部・1973年法学部卒）

現役時はもちろん、卒業後も終生空手道の普及に努められ、その姿勢はあらゆる部員の模範でした。また現役の指導はもとより、空手道部同窓会の事務局長を長年務められ、現役とOBOGとの懸け橋として尽力いただきました。
さらに関西学生空手道連盟の常任理事として、審判の育成をはじめ、組織の運営と空手道の発展に大きく貢献されました。



尾形 浩志（フェンシング部・1984年経済学部卒）

現役時代は、大学からフェンシングを始めたにもかかわらず、関西個人エベ準優勝など優秀な成績を収められました。卒業後は永きにわたり監督を務め、卓越した指導力で女子関西リーグ戦4年連続総合優勝などの好成績に導かれました。
また、監督がまだ現役の社会人であったため、部のKGAD入会には相当な障壁がありましたが、個人の多大な努力によって克服され、入会条件を満たしたことは最大の功績となりました。



梁 英守（柔道部・1974年経済学部卒）

現役時代は主将としてチームの中心で活躍され、その卓越したリーダーシップにより、スポーツ推薦制度廃止という大変革期の部を支えられました。卒業後は、国内外における広範な人脈を活用され、世界的に著名な指導者を講演に招くなど、現役、OB会に多くの刺激を与え続けておられます。また、柔道部新月会幹事長として会の運営に尽力され、組織の発展と結束強化に大きく寄与されました。



米田 義一（剣道部・1969年商学部卒）

4年時は副主将として関西学生選手権準優勝、全日本学生選手権ベスト4という輝かしい戦績を残されました。特に主将の神谷明文氏と戦った関西学生選手権決勝は今も語り草です。卒業後も剣道界への貢献は顕著で、兵庫学生剣道連盟会長を経て、現在は兵庫県剣道連盟審議員・剣道師範として活躍。
国体一般の部にも出場し、剣道界で「神の領域」とされる最高位八段を取得、79歳の今も大学剣道場に足繁く通い、熱心に学生達に稽古を付けておられます。



長井 伸子（バドミントン部・1968年文学部卒）

学生時代はバドミントン部女子チーム創設直後の黎明期に女子のリーダーとして活躍。個人で関西制覇を成し遂げるとともに、チームを1部上位に導かれました。2005年に女子2人目の関西制覇が誕生するまで約40年近く、女性唯一の関西制覇者として後輩の目標であり続けました。
卒業後も女子の代表としてOBOG会の副幹事長を務めるなど積極的に活躍、OBOG会の活動を引っ張り、長く貢献されました。



山田 正雄（ゴルフ部・1968年経済学部卒）

現役時代は主力選手として甲南大と覇権を競い、秋のゴールドメダル学校対抗では完勝に導かれました。卒業後も2005年より土井一郎氏（故人）からOB会長職を引き継ぎ、2021年まで16年間の長きに亘り、よく組織を率いていただきました。
芦屋のご自宅でバーベキューパーティーを開くなど学生の面倒見も模範的でした。「強くあれ! と同時に、良いゴルファーであれ!」。技術的な強さだけでなくマナーや品位を重んじるよう説かれる言葉は、ゴルフ部のモットーとして部員全員の心に刻まれています。

受賞者紹介

◆顕彰 [勇退されたOBOG会長及び監督関係者に対する功績や善行などを讃えて広く皆様に知らしめる] _____

【退任OBOG会長】



魚谷 宏 (バレーボール部・1975年経済学部卒)

現役時代は主務として関西1部リーグ維持に貢献。2014年の倶楽部設立に際し会長に就任、同窓・現役一体となった活動の構築に尽力されました。2015年には女子部創部に伴い初代監督として現場復帰、草創期の興隆に寄与されました。



小谷 茂秀 (バスケットボール部・1976年社会学部卒)

現役時代はポイントガードとして活躍、4年時に15年ぶりの関西制覇を果たされました。卒業後も強豪実業団でプレーする傍ら男子部・女子部の上位定着に尽力、OB会長として創部100周年記念式典開催に多大な貢献をいただきました。



西田 富一 (体操部・1971年商学部卒)

会長として現役から様々な世代のOBOGまで気さくに、的確ながら穏やかに接され、安心感を醸成。大事な局面から些細に思えることまで目配り気配りを絶やさず、11年間にわたって現役との頼もしい橋渡し役を務めてくださいました。



畑中 梢雄 (陸上ホッケー部・1969年経済学部卒)

1996年に会計・事務局を担当以来30年間、OBG会の運営に携わり、2022年から会長を務められました。2005年の創部50周年記念韓国遠征、2014年の創部60周年記念、三田キャンパス人工芝グラウンド開設にも貢献されました。



箱谷 哲治 (自動車部・1975年経済学部卒)

自動車部監督を20年、総監督を10年務め、数々の全日本、全関西優勝を達成。OGB会でも副会長、第6代会長を歴任、部の90周年を機に相談役に就任されました。全日本学生連盟理事も務め、今も試合の企画・運営に携わっております。

【退任監督】



林 雅司 (卓球部・1986年経済学部卒)

木村杯の欄をご覧ください



赤澤 知宣 (自動車部・2010年経済学部卒)

監督就任以来約8年半、技術面のみならず精神面でも現役に寄り添った指導を行い、OGB会とも強固な協力関係を構築。数々の関西制覇をはじめ関西の上位入賞常連校に育て上げ、全日本レベルでも強豪と位置付けられる礎を築かれました。

◆感謝状贈呈 [体育会活動の発展にご尽力された体育会会長及び部長に対し、退任にあたりその功績をたたえ感謝の意を表する]



藤澤 武史 先生 庭球部前部長(商学部教授) [在任期間:2010年4月1日～2026年3月31日(16年)]

16年間部長を務め、低迷期にあっても「Noble Stubbornness」「Mastery for Service」の精神を説き続け、感謝の心を忘れない人間形成に努められました。尽力された全天候型ハードコートへの改修事業は1970年以來の全日本学生室内選手権優勝、来年のITF公認国際男子トーナメント開催へと結実しました。



中西 康裕 先生 硬式野球部前部長(文学部教授) [在任期間:2004年4月1日～2026年3月31日(22年)]

22年の長きにわたり部長を務め2012年秋、2013年秋、2021年春の関西学生野球連盟リーグ優勝、2024年春秋の65年ぶりリーグ連覇へと導いていただきました。

また清水誉(元・阪神タイガース)、宮西尚生(現・日本ハムファイターズ)、荻野貴司(元・ロッテマリーンズ)、近本光司(現・阪神タイガース)、黒原拓未(現・広島東洋カープ)らプロ野球選手をはじめ、多くの卒業生を送り出されました。



岡田 太志 先生 水上競技部前部長(元商学部教授、関西学院大学名誉教授) [在任期間:2006年4月1日～2026年3月31日(20年)]

新チームが稼働する10月と、新入生が入部する4月、先生は部員に直接語り掛ける場を設けてくださいました。繰り返し熱く語られていた言葉があります。「感謝し、満足しなければならない。しかし、慣れてはいけません」。環境に甘えて向上心を失ってはならない。

部員や卒業生は皆、その言葉を胸に精進を重ねています。



北原 和明 先生 航空部前部長(理学部教授) [在任期間:2013年11月1日～2026年3月31日(12年5か月)]

12年5か月の長きにわたって航空部部長を務められ、在任中にコロナ禍という未曾有の困難に見舞われた際も、惜しみなく学生への支援に熱意を注がれ、危機を乗り越えることができました。新機体2機の導入や、格納庫の三田キャンパス内への移転にも優れた指導力を発揮され、成功へ導いてくださいました。

◆体育会からの感謝状贈呈



勇者会 [昭和38年卒業者]

「勇者杯」を通じて永年にわたり本学体育会の発展と現役学生の挑戦を支え続けてこれられました。母校を思い後輩を励まし続けるそのご高志は本学同窓のあるべき姿を体現するものとして体育会から感謝状を授与するもの。

